

# 宮 城 県 の 経 済 動 向

平 成 2 0 年 第 2 四 半 期

( 4 月 ~ 6 月 期 )

## 本県の経済概況

平成 20 年第 2 四半期（4 月～6 月期）の宮城県経済の動向をみると、生産は、横ばい傾向にある。住宅投資は、大幅な減少となった。公共投資は低調である。個人消費は、一部に持ち直しの動きもみられるが低調である。雇用は、弱い動きとなっている。企業倒産は、件数、負債総額ともに増加となった。

このように、景気は足踏み状態である。

### 〔前期（平成 20 年 1 月～3 月期）の概況〕

生産は、緩やかな上昇傾向にある。住宅投資は、大幅な減少となった。公共投資は低調である。個人消費は、一部に持ち直しの動きもみられるが低調である。雇用は、改善の動きに足踏み感がみられる。企業倒産は、件数、負債総額ともに増加となった。

このように、景気は持ち直しの動きが鈍化しており、一服感がみられる。

### 生 産

鉱工業生産指数は、前年同期比が 2 期ぶりに上昇となった。大口電力使用量は、前年同期比が 2 期連続の増加となった。

### 住宅投資

新設住宅着工戸数は、前年同期比が持家は 2 期連続の減少、貸家は 6 期連続の減少、分譲住宅は 4 期連続の減少となった。

全体では 4 期連続の減少となった。

### 公共投資

公共工事請負金額の発注主体別の前年同月比は、国が 2 期ぶりに減少、県が 4 期連続の減少、市町村が 2 期ぶりに減少となった。

全体では 2 期ぶりに減少となった。

### 大型小売店

大型小売店販売額（百貨店・スーパーの販売額の合計。既存店比較）は、前年同期比が 35 期連続の減少となった。百貨店は前年同期比が 2 期ぶりに減少となった。スーパーは前年同期比が 35 期連続の減少となった。

### 自 動 車

軽自動車の新車届出台数を含む乗用車新車登録台数は、前年同期比が 6 期連続の減少となった。普通車は前年同期比が 4 期連続の増加、小型車は前年同期比が 9 期連続の減少、軽自動車は前年同期比が 4 期連続の減少となった。

### 物 価

仙台市消費者物価指数は、総合指数は、前年同期比が 4 期連続の上昇となった。生鮮食品を除く総合指数は、前年同期比が 4 期連続の上昇となった。食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数は、前年同期比が 5 期ぶりに低下となった。

### 雇 用

有効求人倍率（原指数）は、前年同期差が 3 期連続の低下となった。新規求人倍率（原指数）は、前年同期差が 4 期連続の低下となった。

実質賃金指数（製造業・30 人以上）は、前年同期比が 3 期ぶりに低下となった。

### 企業倒産

企業倒産は、件数は前年同月比が 4 期連続の増加となった。負債総額は前年同月比が 4 期連続の増加となった。

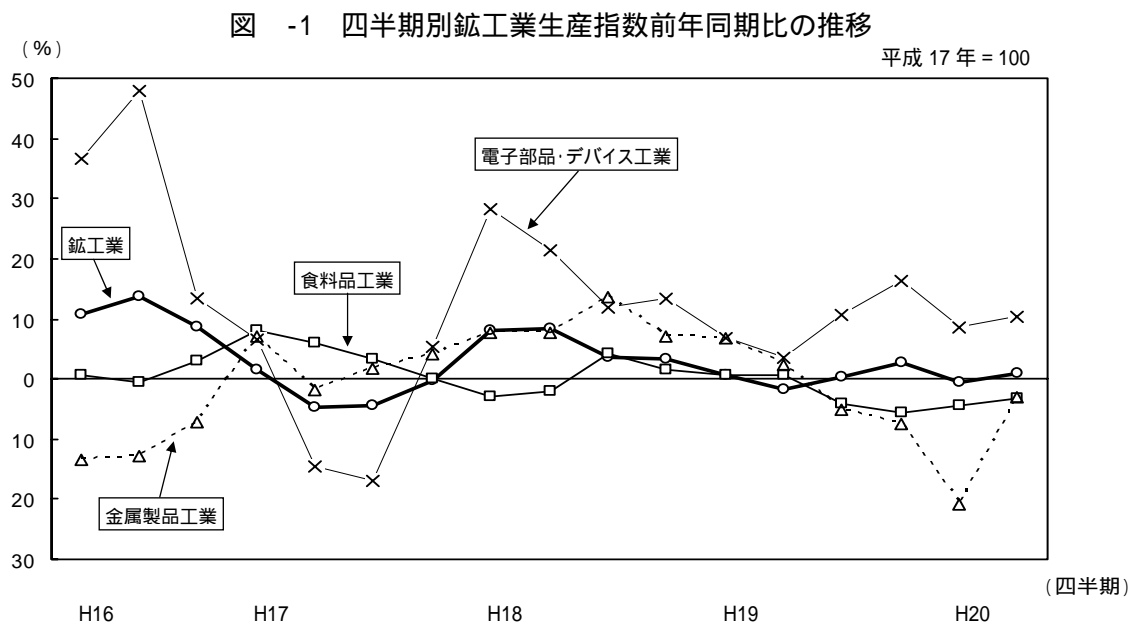
# 生産

## (1) 鉱工業生産指数

平成20年第2四半期(4月～6月期)の鉱工業生産指数(季節調整済)は105.1(平成17年=100)で、前年同期比(原指数での比較)が1.0%の上昇となり、2期ぶりに上昇となった。

ウェイトの大きい業種を中心にみると、電子部品・デバイス工業は前年同期比が10.4%の上昇となり、11期連続の上昇となった。パルプ・紙・紙加工品工業は前年同期比が12.1%の上昇となり、4期連続の上昇となった。

一方で、食料品工業は前年同期比が3.1%の低下となり、4期連続の低下となった。金属製品工業は前年同期比が2.8%の低下となり、4期連続の低下となった。一般機械工業は前年同期比が15.5%の低下となり、2期連続の低下となった。



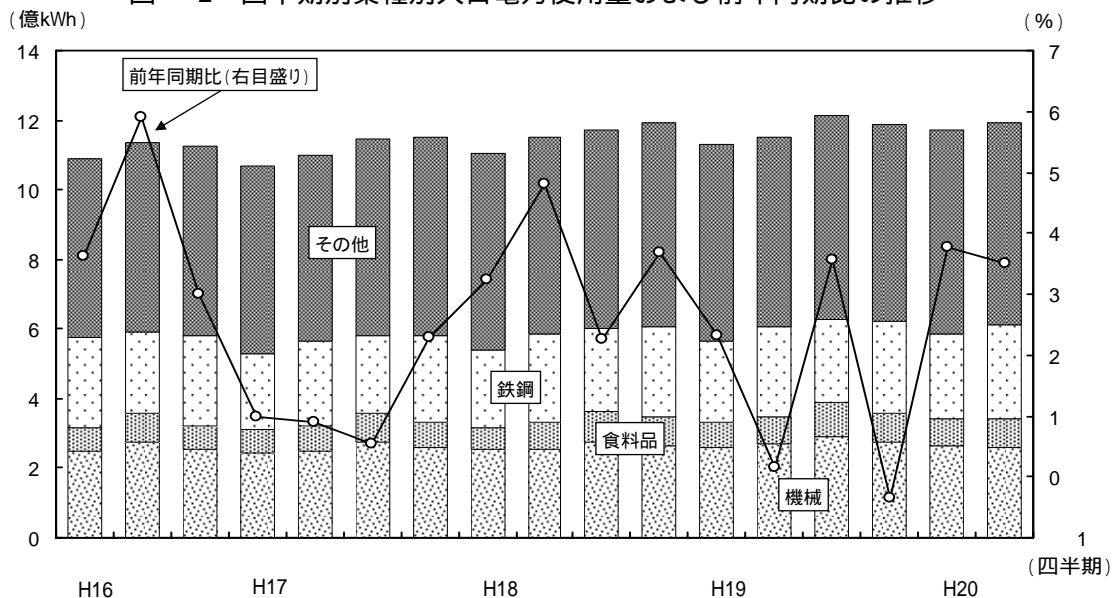
(資料:宮城県統計課)

## (2) 大口電力使用量

平成20年第2四半期(4月～6月期)の大口電力(契約電力500kW以上)使用量は11億9,199万 kWhで、前年同期比が3.5%の増加となり、2期連続の増加となった。

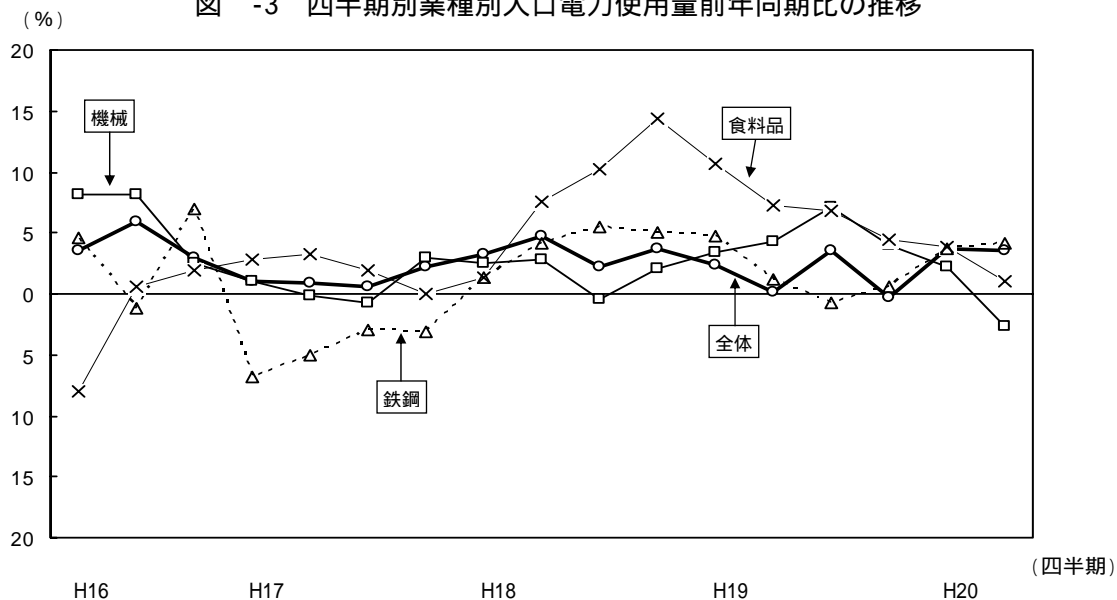
主要業種別にみると、食料品分野は前年同期比が1.1%の増加となり、平成16年第3四半期以降、16期連続の増加となった。機械分野は前年同期比が2.7%の減少となり、7期ぶりに減少となった。鉄鋼分野は前年同期比が4.1%の増加となり、3期連続の増加となった。

図 -2 四半期別業種別大口電力使用量および前年同期比の推移



(資料:(株)東北電力宮城支店「業務資料」)

図 -3 四半期別業種別大口電力使用前年同期比の推移



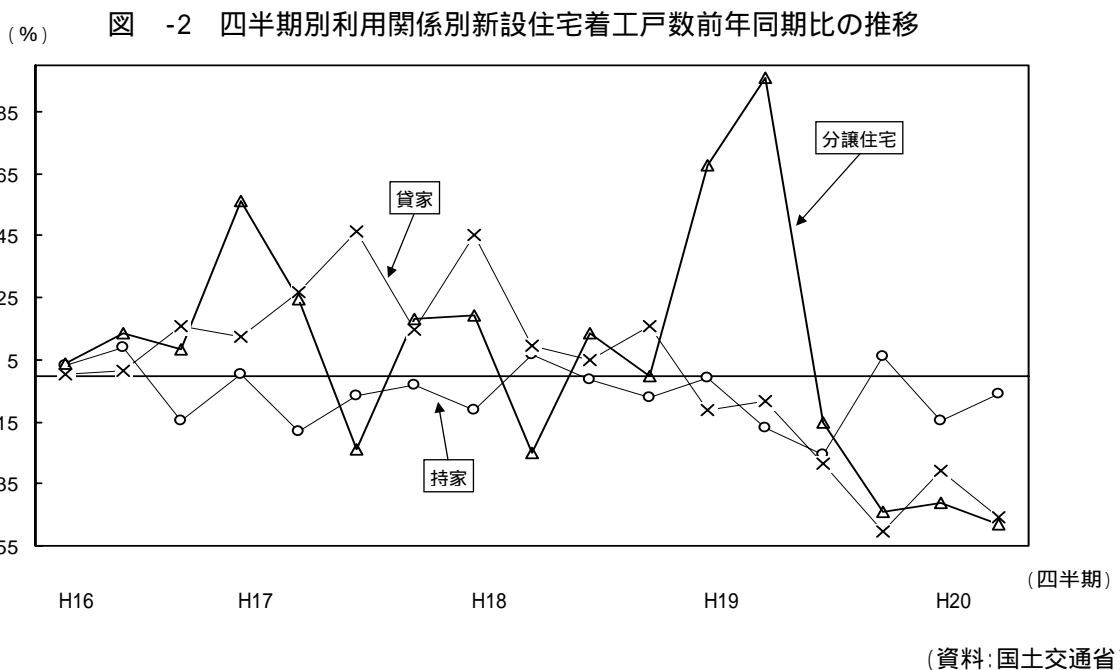
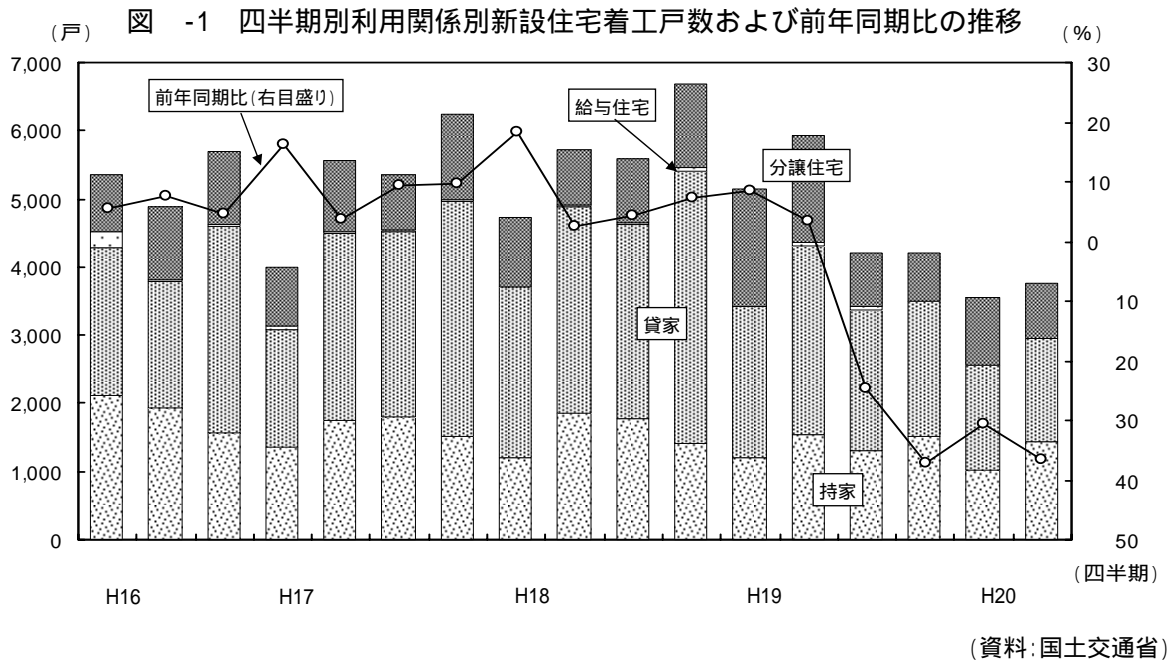
(資料:(株)東北電力宮城支店)

# 建設投資

## (1) 新設住宅着工戸数

平成20年第2四半期(4月～6月期)の新設住宅着工戸数は3,757戸で、前年同期比が36.5%の減少となり、4期連続の減少となった。

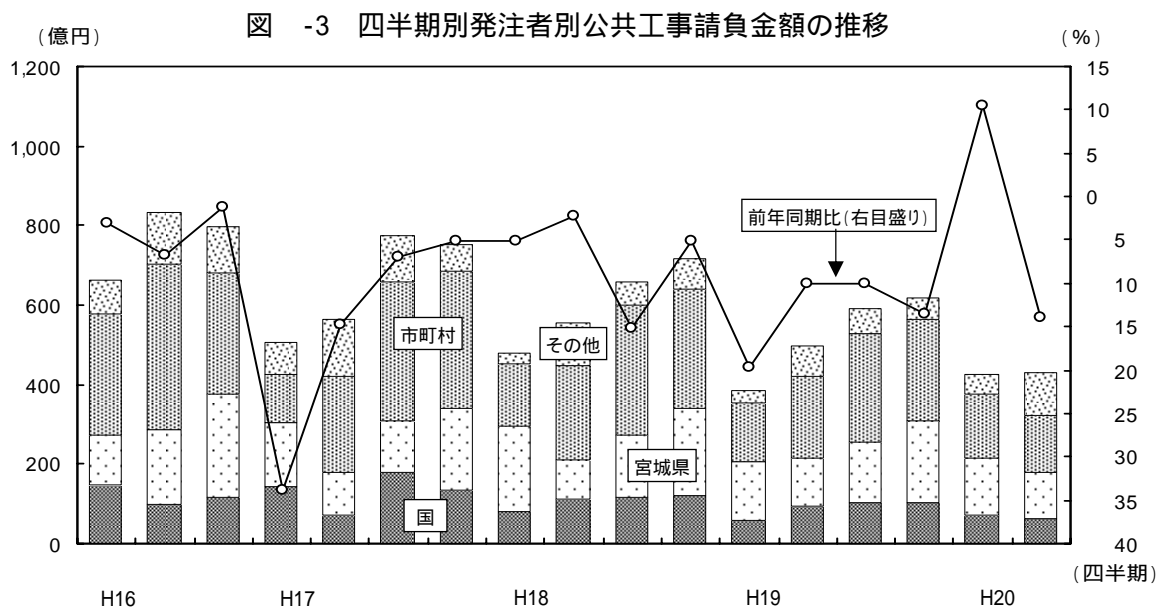
利用関係別にみると、持家(建築主が自分で居住する目的で建築するもの)は前年同期比が6.2%の減少となり、2期連続の減少となった。貸家(建築主が賃貸する目的で建築するもの)は前年同期比が45.7%の減少となり、6期連続の減少となった。分譲住宅(建売または分譲の目的で建築するもの)は前年同期比が48.4%の減少となり、4期連続の減少となった。



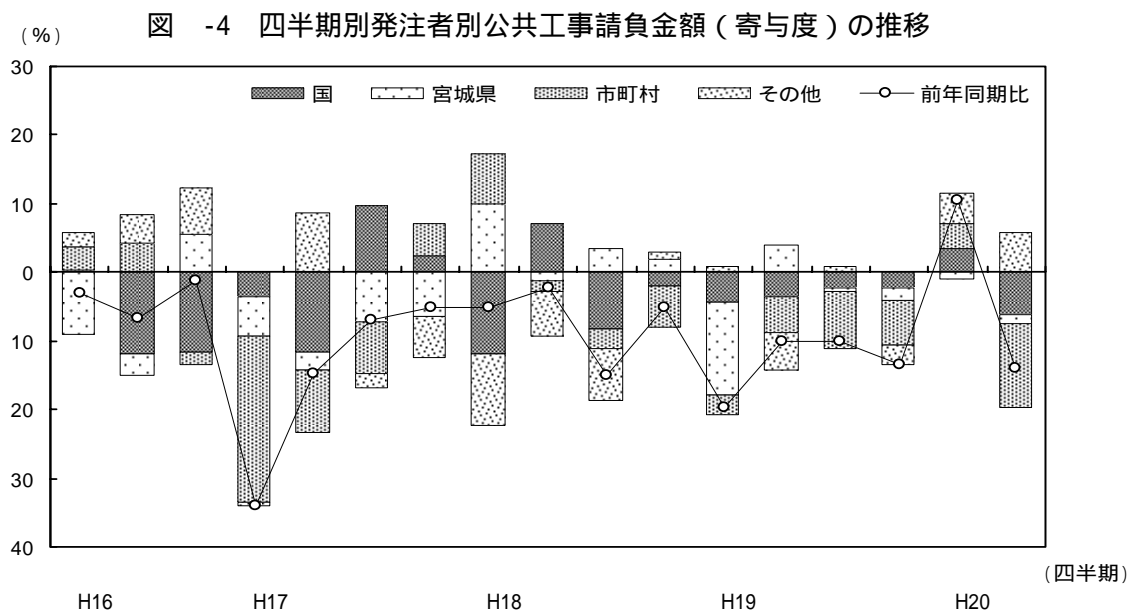
## (2) 公共工事請負金額

平成20年第2四半期(4月～6月期)の公共工事請負金額は428億4,800万円で、前年同期比が13.9%の減少となり、2期ぶりに減少となった。

発注者別にみると、国は前年同期比が33.7%の減少となり、2期ぶりに減少となった。宮城県は前年同期比が4.5%の減少となり、4期連続の減少となった。市町村は前年同期比が30.0%の減少となり、2期ぶりに減少となった。



(資料: 東日本建設業保証(株))



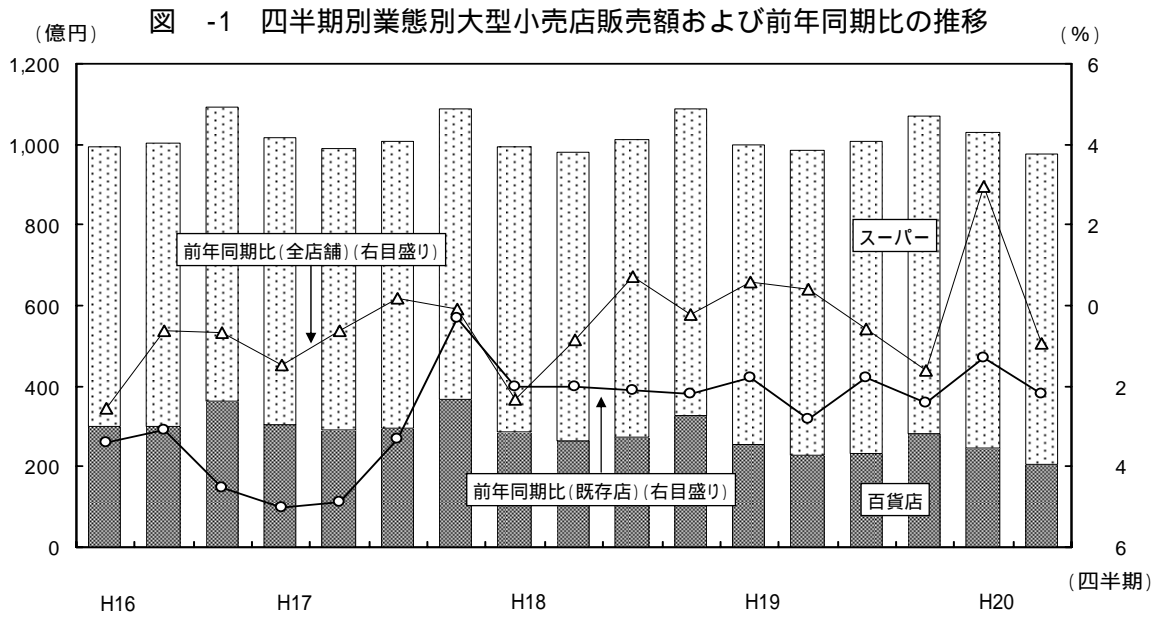
(資料: 東日本建設業保証(株))

# 個人消費

## (1) 大型小売店販売額

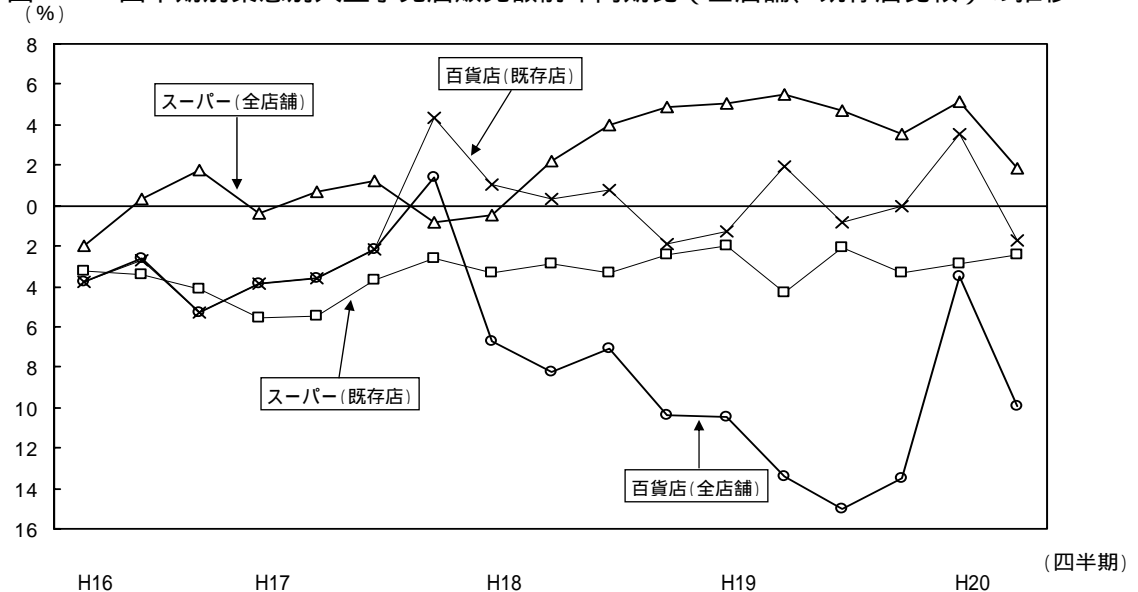
平成20年第2四半期(4月～6月期)の大型小売店販売額は、975億7,800万円で、前年同期比(既存店比較)が2.2%の減少となり、平成11年第4四半期以降、35期連続の減少となった。

業態別にみると、百貨店の販売額は207億2,400万円で、前年同期比(既存店比較)が1.7%の減少となり、2期ぶりの減少となった。スーパーの販売額は768億5,400万円で、前年同期比(既存店比較)が2.4%の減少となり、平成11年第4四半期以降、35期連続の減少となった。全店舗比較では前年同期比が1.8%の増加となり、9期連続の増加となった。



(資料:東北経済産業局)

図 -2 四半期別業態別大型小売店販売額前年同期比(全店舗、既存店比較)の推移

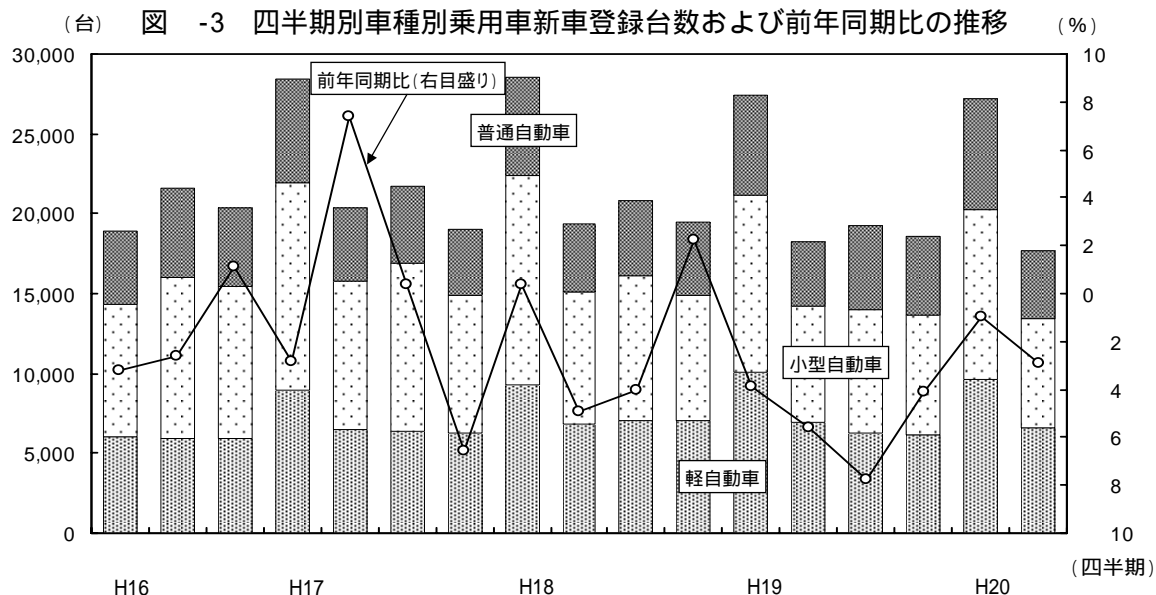


(資料:東北経済産業局)

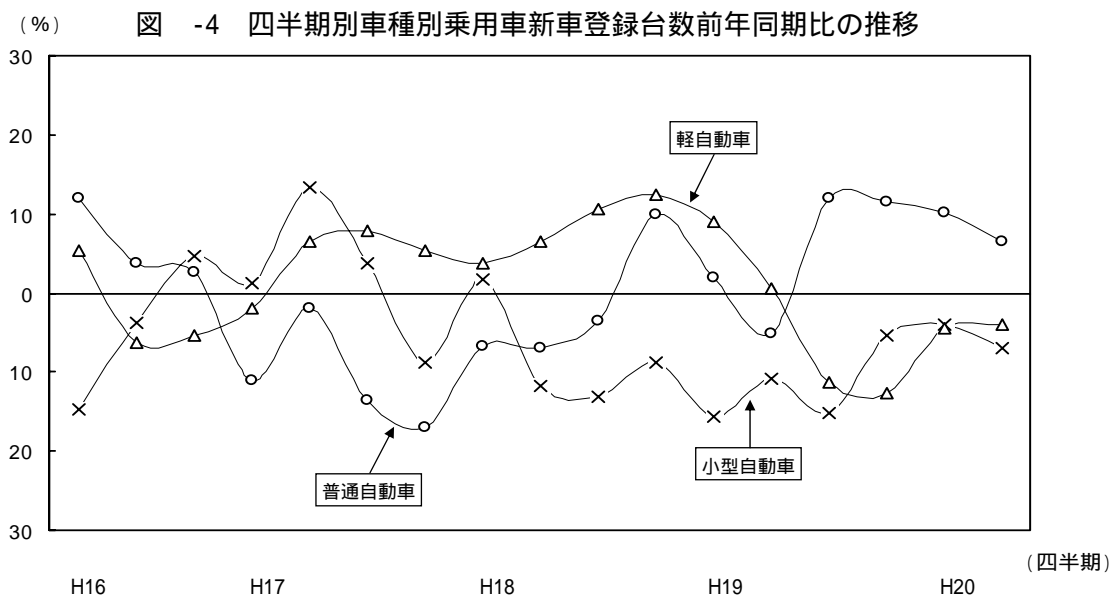
## (2) 乗用車新車登録台数

平成20年第2四半期(4月～6月期)の軽自動車の新車届出台数を合わせた乗用車新車登録台数は1万7,736台で、前年同期比が2.9%の減少となり、6期連続の減少となった。

車種別にみると、普通車(排気量2,000cc超)は前年同期比が6.5%の増加となり、4期連続の増加となった。小型車(排気量2,000cc以下)は前年同期比が7.0%の減少となり、9期連続の減少となった。軽自動車(排気量660cc未満)は前年同期比が4.1%の減少となり、4期連続の減少となった。



(資料:自動車販売協会連合会宮城県支部、全国軽自動車協会連合会)



(資料:自動車販売協会連合会宮城県支部、全国軽自動車協会連合会)



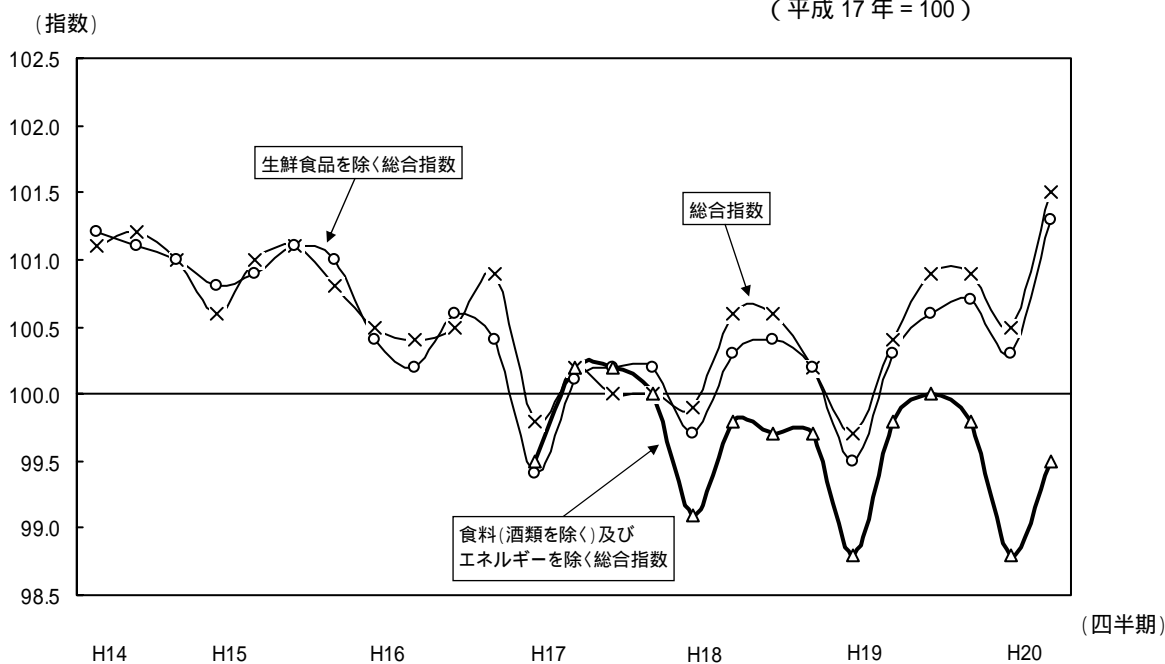
# 物 価

## (消費者物価指数)

平成20年第2四半期(4月～6月期)の平均仙台市消費者物価指数(平成17年=100)は、総合指数は101.5で、前年同期比が1.1%の上昇となり、4期連続の上昇となった。生鮮食品を除く総合指数は101.3で、前年同期比1.0%の上昇となり、4期連続の上昇となった。食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数は、99.5で、前年同期比が0.3%の低下となり、5期ぶりに低下となった。

図 総合指数、生鮮食品を除く総合指数などの推移

(平成17年=100)



(資料:宮城県統計課)

## 雇 用

### (1) 有効求人倍率および新規求人倍率

平成20年第2四半期(4月～6月期)の有効求人(月平均値)は3万2,600人で、前年同期比が22.4%の減少となった。有効求職者数(同)は4万9,113人で、前年同期比が2.4%の増加となった。有効求人倍率(原指数)は0.66倍で前年同期差は、0.22ポイント低下し、3期連続の低下となった。

新規求人数(月平均値)は1万2,621人で、前年同期比が19.2%の減少となった。新規求職申込件数(同)は1万3,256件で、前年同期比が1.4%の増加となった。新規求人倍率(原指数)は0.95倍で前年同期差は、0.24ポイント低下し、4期連続の低下となった。

図 -1 有効求人(四半期平均)、有効求職者数(同)および

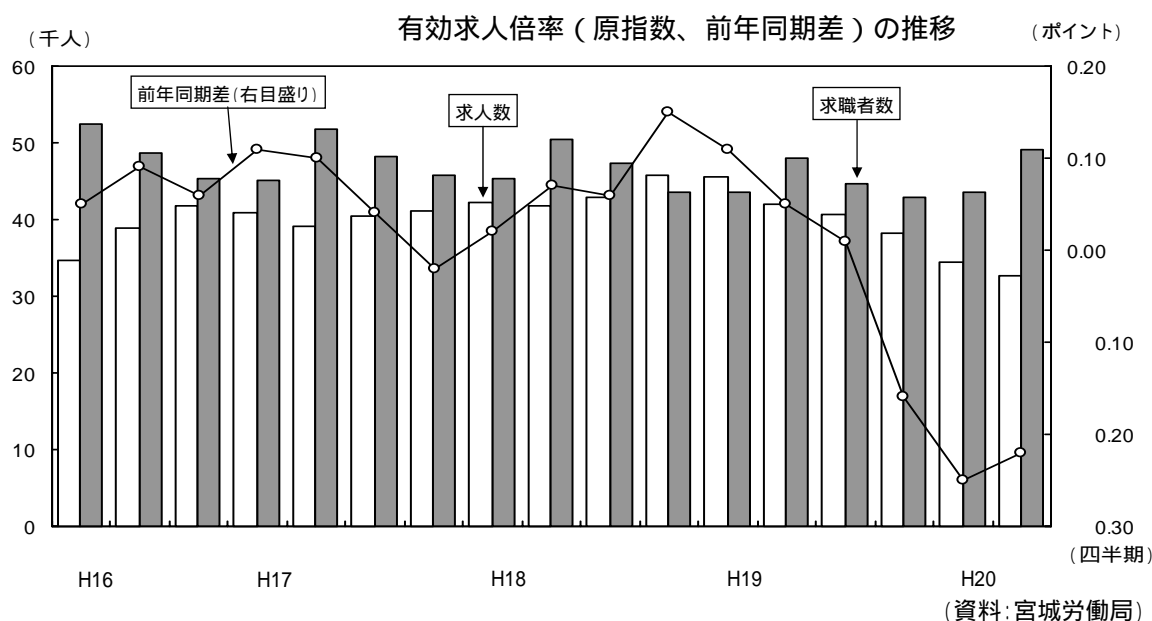
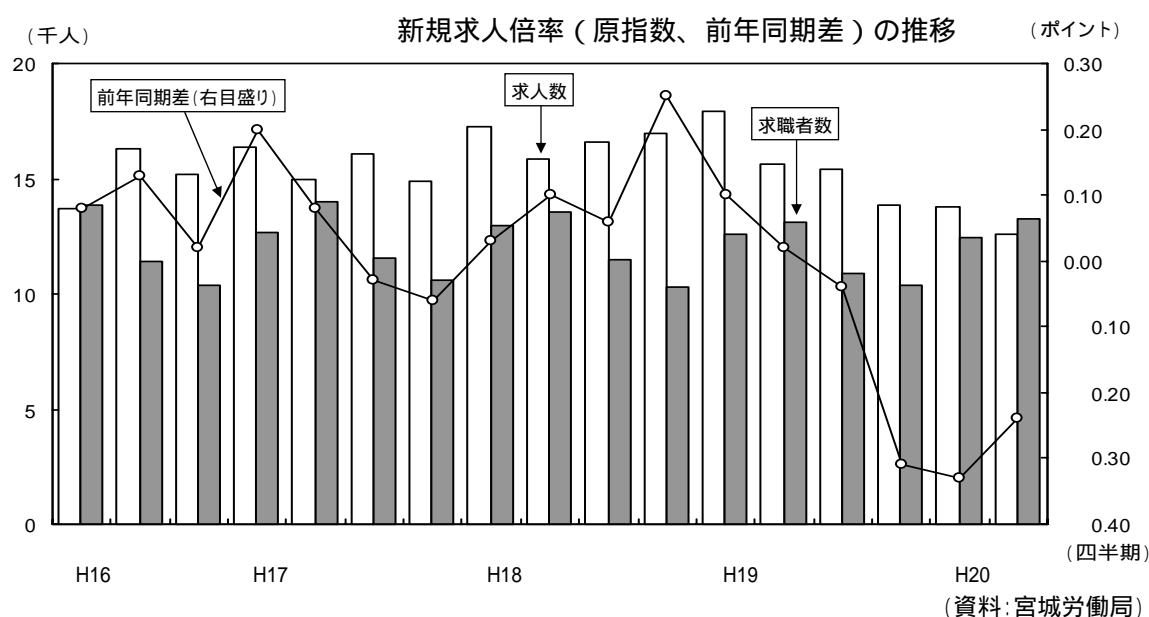


図 -2 新規求人数(四半期平均)、新規求職者数(同)および

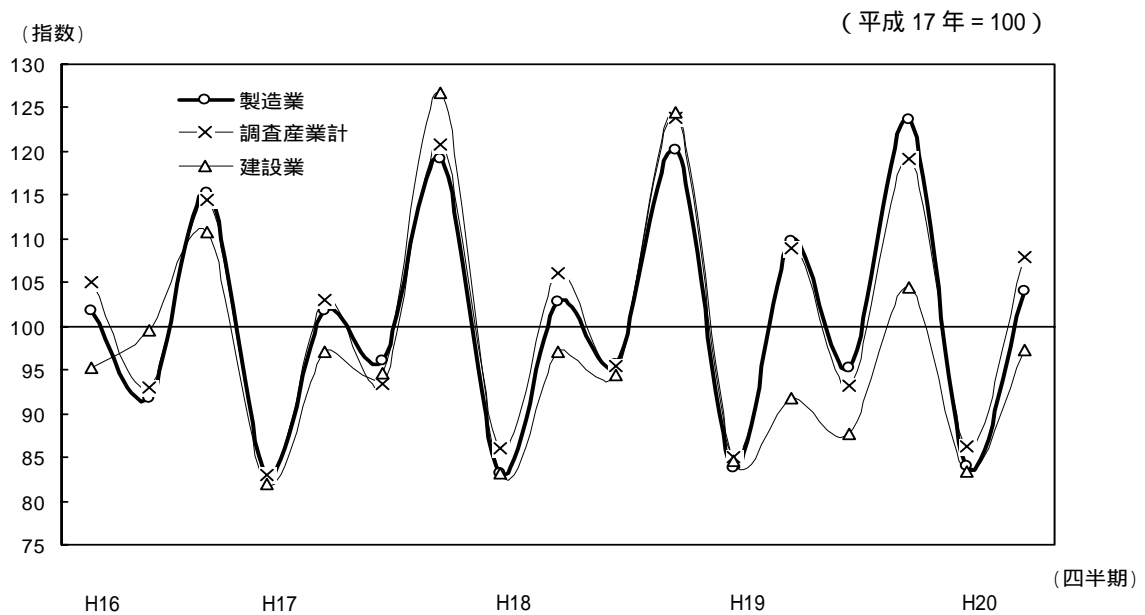


## (2) 賃金

平成20年第2四半期(4月～6月期)の実質賃金指数(平成17年=100)の調査産業計(事業所規模30人以上)は107.9で前年同期比が1.0%の低下となり、2期ぶりに低下となった。

主要業種別にみると、製造業(事業所規模30人以上)は104.1で前年同期比が5.1%の低下となり、3期ぶりに低下となった。建設業(事業所規模30人以上)は97.3で前年同期比が6.0%の上昇となり、5期ぶりに上昇となった。

図 -3 四半期別主要業種別実質賃金指数の推移(事業所規模30人以上)



(資料:宮城県統計課)

# 倒産

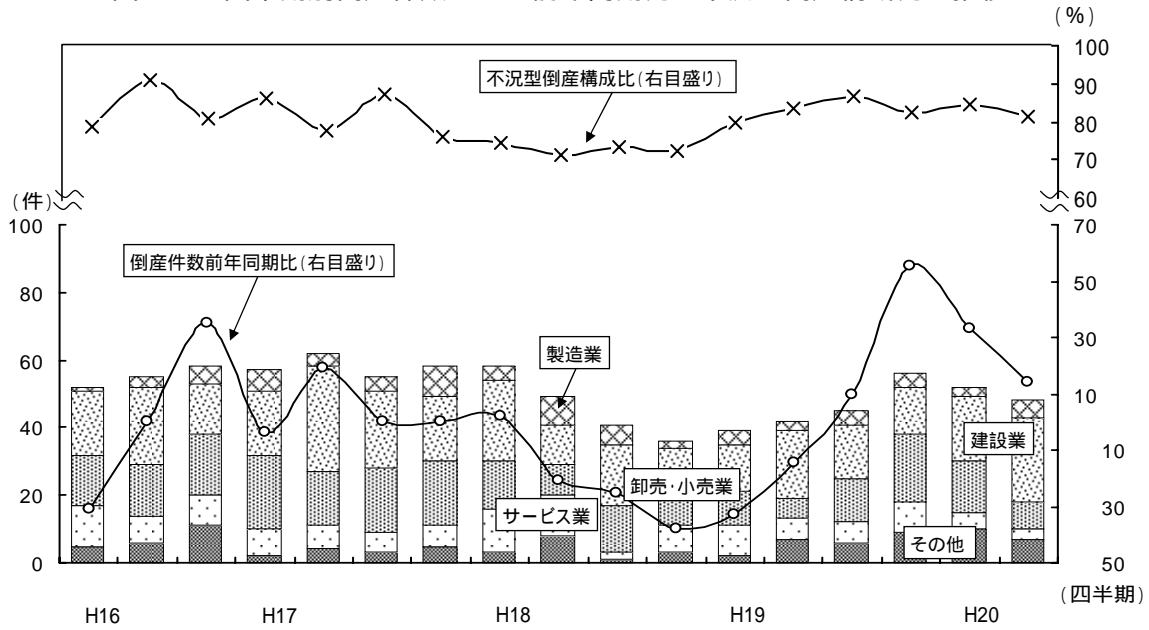
## (企業倒産)

平成20年第2四半期(4月～6月期)の宮城県内の企業倒産(負債総額1,000万円以上)の件数は48件で、前年同期比が14.3%の増加となり、4期連続の増加となった。負債総額は113億2,200万円で、前年同期比が24.6%の増加となり、4期連続の増加となった。

これらのうちの不況型倒産(販売不振、売掛金回収困難、赤字累積)の件数は39件で、4期連続の増加となった。件数の構成比は81.3%で前年同期より2.0ポイント低下となった。

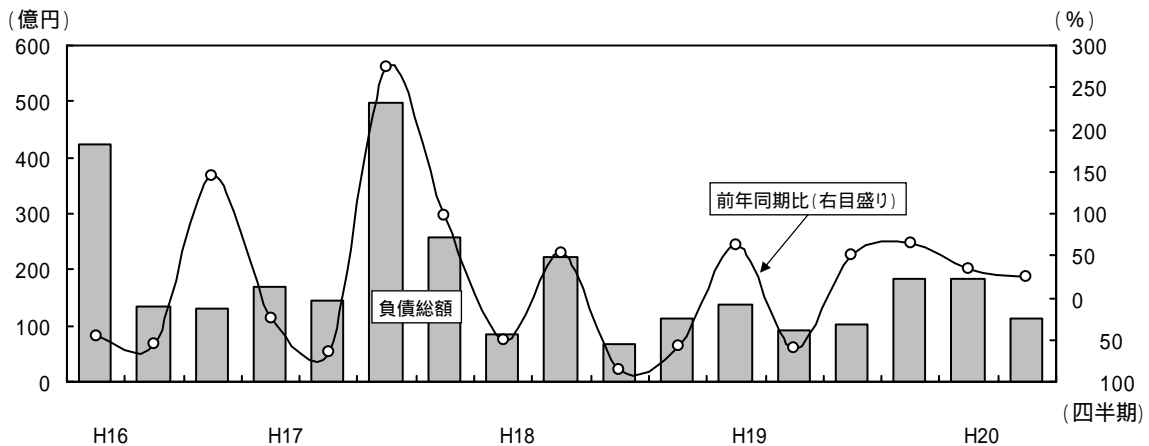
大型倒産(負債総額10億円以上)は2件発生し、前年同期より1件増加した。負債総額は、29億7,000万円であった。

図 -1 四半期別倒産件数および前年同期比と不況型倒産構成比の推移



(資料: (株)東京商工リサーチ)

図 -2 四半期別倒産の負債総額および前年同期比の推移



(資料: (株)東京商工リサーチ)